週刊 京都民報
2017年 1月15日㊐ 第2769号
㈱京都民報社　発行所／〒604-0003 京都市中京区衣棚通夷川上ル吉田ビル ☎075(256)0901／FAX075(223)2033 ✉kyoto-minpo@nifty.com　京都民報Web HP www.kyoto-minpo.net

京の消防力 大丈夫？

京プラン 消防出張所の廃止・縮小 職員150人カット

出動隊数縮小、一部で消防隊不在の恐れも

昨年12月に発生した新潟県糸魚川市の大火災を契機に、自治体の消防力が注目される中、京都市では「京プラン実施計画」に基づき、この間、3カ所の消防出張所の廃止・縮小と職員約150人の削減を断行してきました。そのため、一部地域で消防隊が不在となる危険性が生じるとともに、火災発生時の消防車の出動部隊数を減らしていることが分かりました。

（辻井祐美子）

現場に危機感“1分の遅れ命とりに”

判明したのは、消防局の通知などからです。一つは、廃止（昨年10月1日）された四条出張所（中京区）に伴い、中京、上京両消防署宛てに出された文書（同月12日）です。中京署が訓練などで署を不在にする際は、隣接する行政区の上京署と連絡を取り、上京署は署で待機するよう求めた異例の「要請」文です。

要請では「消防隊を削減するなかで、市内警備で一部地域に消防隊がいないということを招かないようにしなければならない」と説明。これまで、中京署不在の場合、同区の「西大路出張所または四条の隊が同署へ配転していた」ものが、四条の廃止に伴い西大路がその分をカバーし、「同署への配転が困難となったため」としています。

もう一つは、昨年8月17日付の各部・課・署長などに宛てた通知です。通知では、第1出動の際の消防車両出動部隊数を縮小し、▽一般住宅などの「基準建物火災」では、7隊から6隊▽4階建て以上の「中高層建築物火災」では、6隊から5隊―にし、同年9月1日から運用を開始するとしました。

同通知では、体制縮小の理由について、小型水槽車の導入などで、「早期放水活動体制が整った」ことなど、機能向上を挙げます。しかし、実際の原因は、門川市長のもと策定された「京プラン実施計画」（計画期間2012年~20年度）のリストラ方針にありました。

京都の町の特性として、国基準に基づく「木造密集市街地」が59地区に上り、総棟数の22%（約16万戸）の住宅が同地域にある（12年現在）にもかかわらず、市は体制見直しを推進してきました。この6年間で（グラフ参照）、▽四条など3出張所の消防隊（15人体制）を廃止し、救急隊（9人体制）だけの出張所へ機能を縮小▽消防車1台に必要な隊員数5~4人を、ほぼ全域で4人体制とする―などで、職員149人を削減。今後、大宮出張所（上京区）を廃止（20年4月までの予定）するなど、20年度までにさらに職員77人を減らす方針です。

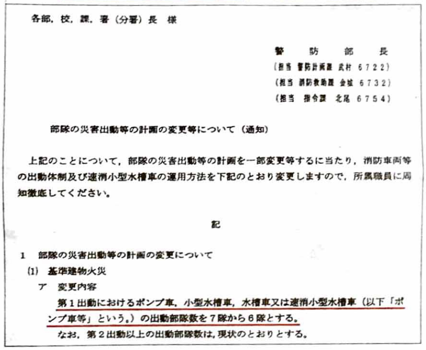
相次ぐ体制縮小に、現場で問題は起こっていないのでしょうか。昨年12月14日、北、中京、伏見の3行政区で起こった火事はどれも延焼し、3カ所とも約2百平方㍍が焼失しました。

ある消防士は「この日は強風だったこともあるが、これだけの規模で延焼したのは、第1出動の隊数減も影響しているのではないか」と不安を口にします。その上で、「木造2階建て家屋なら3分あれば全焼する。1分の放水の遅れも命とりになることを、市長らトップは知っているのか」と嘆きます。現場で指揮を執る消防司令の職員は「先き行きに多くの職員が危機感を感じている」と言います。

消防局が「無火災都市」京都を目指してから約60年。市民の命よりも財政「効率化」を優先する市トップの姿勢―。「人員削減のツケは結局市民に行く。現状を市民は知ってほしい」。ベテランの士長はこう訴えました。

4面に続く

（右）昨年12月14日、北区紫野で起こった住宅火災の様子。火元宅に加えて4軒、合計200平方㍍が消失 ＝SNSに投稿された写真
（下）消防局が第1出動の隊数削減を通知した文書（抜粋）



各部，校，課，署（分署）長　様

警　防　部　長
（担当　警防計画課　武村　6722）
（担当　消防救助課　金城　6732）
（担当　指令課　北尾　6754）

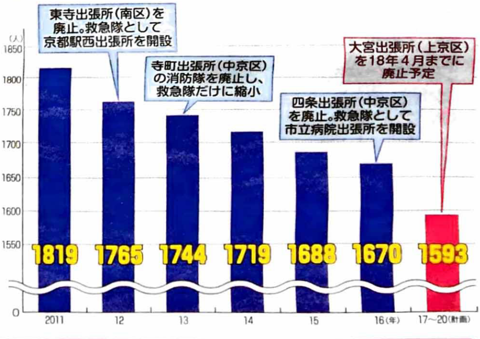
部隊の災害出動等の計画の変更等について（通知）

上記のことについて，部隊の災害出動等の計画を一部変更等するに当たり，消防車両等の出動体制及び速消小型水槽車の運用方法を下記のとおり変更しますので，所属職員に周知徹底してください。

記

1　部隊の災害出動等の計画の変更について
(1)　基準建物火災
ア　変更内容
第1出動におけるポンプ車，小型水槽車，水槽車又は速消小型水槽車（以下「ポンプ車等」という。）の出動部隊数を7隊から6隊とする。
なお，第2出動以上の出動部隊数は，現状のとおりとする。

消防局職員数の推移と消防出張所の削減・合理化



「子ども若者はぐくみ局」の問題点…3
南丹市にメガソーラー計画…6
新連載「龍馬、新発見」…7
新春共闘対談…8 9
新連載「はじめてのマンマ」…15
新連載「生きもの探訪」…16

月ぎめ617円（税込み）　1部売り160円　郵送料198円　郵便振替01000-4-19543